

人材育成から始まった

「市民が主役の支え合う
仕組みづくりとその実践」



りんどう



ゆめはな



しらみず



あけぼの



又又土城

暮らしのサポートセンターの取り組み(大分県竹田市)

暮らしのサポーターの取り組みの経緯について

- ① 事業構想期 (H22~H23)** 厚生労働省 地域雇用創造推進事業を活用
竹田市の現状(高齢化率43%、交通弱者の増加、限界集落の増加)
↓
○暮らしを支える互助の仕組みづくり(寄り合い場、有償ボランティアの仕組み、仲間を作ろう！)
- ② 事業スタート期 (H23~H24)** 人材育成セミナーの取り組み(暮らしのサポーターの養成)
まずは「人づくり」！ 地域福祉や介護をテーマにセミナーを開催(気づき→今、自分にできることは？)
↓
○暮らしのサポーターのネットワーク化、組織化を図る(第1号くらサポ「りんどう」誕生 H24.9.6)
- ③ くらサポ実践期 (H24~H25)** 拠点づくり、ニーズ調査、サービス開発、コーディネーター
拠点づくり : サポーターの活動拠点であり、いつでも気軽に立ち寄ることができる憩いの場
ニーズ調査 : 生活課題実態調査をサポーターを中心に実施(聞き取り調査)
サービス開発 : 専門職ではなく、サポーター(高齢者)による生活支援サービス(有償サービス)
コーディネーター: くらサポ役員と連携して、サービスの開発、サポーターと利用者の間をつなぐ
- ④ 市全域への展開(H26~H27)** 竹田ならではの互助の仕組みとして、市全域に広げる
くらサポ「りんどう」の活動を通じて、市においてもくらサポの必要性、支援のあり方を検討
市全域(7地域)での設置を目指す。

※ 人材育成 + 生活課題実態調査 + 組織立ち上げ + 拠点整備 + 住民への周知

暮らしのサポーターの取り組みの手法について

① 人材育成（暮らしのサポーター養成セミナー）

セミナー参加者の募集 地域福祉や介護に関心のある方、リーダーに声掛け
住民の皆さんと地域の現状について議論



○暮らしのサポーター養成セミナーを開催（20講座）

② ニーズ調査（生活課題実態調査）

養成された「暮らしのサポーター」と地域の高齢者の生活実態を調査（地域の実態を肌で感じる）
必要とされる生活支援サービスや寄り合いの場、広場（サロン）の必要性を把握する

③ 組織立ち上げ（地域を考える会⇒設立準備会⇒設立総会）

まずは、仲間づくり！（一人では継続できません）

④ 拠点整備（くらサポの活動拠点、寄り合いの場、広場（サロン）の拠点）

市の遊休施設や空き店舗を活用して、いつでも気軽に立ち寄れる「寄り合い場」、サポーターの拠り所

⑤ 住民への周知（サービスを求める利用者（家族）、新たな活動会員の募集）

サービスを必要とする利用者のもとより、家族への周知、関係機関との連携を深める

※ 「高齢者の社会参加」 = 絶えず人材育成の実施（実施主体の確保）

①人材育成(暮らしのサポーター養成セミナー)

- ・チラシ配布による申込み⇒2~3件程度しかありません...
- ・訪問による案内⇒参加者の8割~9割は声掛けによる申込み者です。
ひと地域当たり70~80件訪問します。
- ・セミナー開催⇒20回~50回(計312回)

参加者;450人(荻93、直入65、久住107、竹田185) 延2,831人

※アンケート記入による意識の変化(気づきの大切さ)

②ニーズ調査(生活課題実態調査で高齢者の声を聴く)

- ・受講者を中心とした日常生活の実情把握、個別訪問面談による聞き取り(約40項目)
⇒郵送による記入式ではなく直接話す事で、調査項目だけでは把握できない部分や、
家の様子を知ることができる

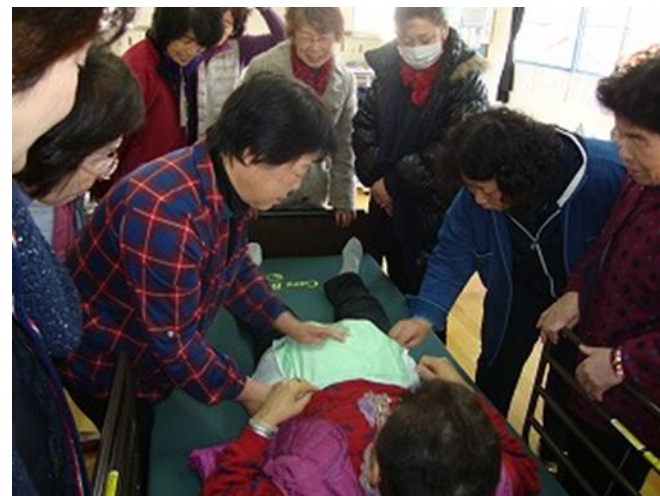
**地域住民自らが地域に
深く関わり、実情を知
ることで意識が変わる**



**その後の活動に
繋がっていく!**

【暮らしのサポーター養成セミナー アンケート抜粋】

- ・年を取った時、こういうシステムがあると助かると思います。少しの時でも出来るなら、**スタッフとして参加してみたい。**
- ・**このセミナーの場が、人と人を繋ぐ場になっていますね。**
お声かけ有難うございました。
- ・有償サービスですとほんとに両方がいいのではないかと思う。
(どちらも気を使わないで)
- ・有償サービスは地域の共通理解、課題の共有、協力が必要不可欠。**自治会内での学習から始める、そういう機会を作りたい。**
- ・認知症の方への接し方について学んだが、これは認知症の方だけではなく、高齢者や家庭、会社など全ての領域に応用すべき。
- ・基本的に相手に対する思いやりの心が必要である。
- ・父が認知症で介護していたが、その頃は知識がなく、いつも怒っていたので・・・
今日のような勉強をしていたら心穏やかに話を聞いてあげられたのかなあーと後悔している。
- ・**あまり進まない気持ちで参加し始めましたが、終わってみれば皆出席で外仕事のない冬期に良い勉強ができ、得をした気分。役に立てる事は少ないと思うが、沢山の資料を頂き、自分の財産となった。**
- ・自分の為にとと思って来た。来るからには毎度来ると心に決めていた。何か人の為になる事が出来れば幸い。色んなことを学んだ。ありがとうございました。
- ・**「暮らしのサポーター」の役割、立ち位置、あり方に関する意識が明確に理解できた。**
ボランティアではあるが、その前に「人とのつながり」である事を忘れてはいけないなと感じた。
- ・マニュアル的にならないよう、人情の延長である気持ちを持ち続ける事が大事だと思う。



セミナー終了後・北部「双城(そうじょう)」の例

くらサポコーディネーターも参加し、
地域の人と一緒に考えます

会議名	開催日	場 所	参加者数
第1回 北部地域を考える会	3月10日	宮城分館	24名
第2回 北部地域を考える会	3月17日	〃	17名
第1回 北部設立準備会	4月 7日	〃	23名
第2回 北部設立準備会	4月14日	〃	24名
第3回 「双城」設立準備会	4月30日	〃	28名
第4回 「双城」設立準備会	5月19日	〃	34名
第1回 「双城」設立準備会役員会	5月26日	〃	9名
第5回 「双城」設立準備会	6月 9日	〃	31名
第2回 「双城」設立準備会役員会	6月16日	〃	9名
第6回 「双城」設立準備会	6月23日	〃	27名
第7回 「双城」設立準備会	7月 7日	〃	26名
竹田北部「双城」設立総会	7月14日	〃	
オープニングセレモニー	〇月〇日	未定	

人材育成をしながら、地域ならではのサービスの創出、
活動の場も同時に創っていく

各くらサポ設立までの経緯

平成24年	9月 6日	くらサポ 第1号 久住「りんどう」設立
平成25年	6月～9月	直入地域生活課題実態調査実施（65歳以上、848/1023人）
	10月 9日	くらサポ 第2号 直入「ゆのはな」設立
平成26年	7月～10月	荻地域生活課題実態調査（75歳以上、585/728人）
	11月 7日	くらサポ 第3号 荻「しらみず」設立
平成27年	1月～3月	竹田南部地域生活課題実態調査（541/658人）
	3月25日	くらサポ 第4号 竹田南部「あけぼの」設立
	4月～7月	竹田北部地域生活課題実態調査実施中（470/580人）
	7月14日	くらサポ 第5号 竹田北部「双城」設立

※6月21日より竹田西部地域で暮らしのサポーター養成セミナーを実施しており、7月29日から竹田東部地域でも開催。その後、今年度中には西部・東部地域にもくらサポ設立を目指しており、全部で7つ設立する予定。



生活支援サービスとは

- ・住民同士の助け合いを基本とし「住み慣れた地域で安心して暮らし続ける」ための活動です。
- ・介護保険サービスや、障害者自立支援サービスなど、公的な制度では対応できない「暮らしのちょっと困り」を有償でお手伝いします。
- ・「自立支援」の考え方を重視し、既存サービスの際間を埋められるよう、できる人ができる範囲で活動します。（利用料：30分400円、1時間800円）



りんどう生活支援サービス実施件数

どんな事を頼めるの？

- ・食事の準備、掃除洗濯、ごみ出し、見守り・話し相手、買物代行などの家事のお手伝いや、趣味の農作業支援、草刈り、地区行事の代理、病院への付き添いなどの外出支援。
- ・ご相談に応じて、お手伝いできる範囲で活動します。
- ・原則として平日午前9時から午後5時まで対応しますが、時間外はご相談に応じます。



～できる人ができる時にできる事を～

支援内容	H24年度	H25年度	平成26年度												合計
			9月～	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
見守り・服薬確認・話し相手	85	126	4	4	4	9	7	5	5	3	1	1	2	1	257
外出支援	59	217	6		7	1	10	2	6	3	5	1	6	2	325
入院中の支援	18	22													40
掃除、洗濯、整理整頓	19	99		3		2	2	1	2	2	2	2	2	2	138
ゴミ捨て	9	30		5	2	1	1	1		1		1		51	
草刈り・草むしり・庭木伐採	11	43	3	5	6	11	5	9		2				1	96
買物代行	6	43	2	1	2	1		1	1					1	58
大工仕事、修理修繕		17	1	2		1		1		1	1	1		1	26
趣味の農作業支援	3	11	3	3	2	3		2	2		1		1	2	33
自治会行事代理（草刈り・立会等）	1	9	3			2									15
その他（ペットの餌やり・手続代行等）	9	15	2					1					1	2	30
	220	632	24	23	23	31	25	23	16	12	10	6	12	12	1069

生活支援を実践したサポーターの意見

* 良かった点・嬉しかった点 *

- ・ありがとうございます、またお願いすると感謝の言葉を聞くと、とても嬉しい。
- ・見守りに行った人が、日増しに元気になっていたので嬉しかった。
- ・技術もないしプロでもない私がした事でも、大変喜んでくれて嬉しい。
- ・草刈りは大変だけど、美しくなった景色を見ると達成感がある。

* 困った点・今後の課題 *

- ・こんなお手伝いでいいのかなと気の毒に思ったり…複雑です。
- ・自分も歳なので、今後は段々と活動が負担になっていくのではないかなあ。そうなると困るなあ。
- ・トイレ掃除など、どこまでお手伝いしていいものか迷います。
- ・作業時間がはっきり分からないので、実際に活動してみたら思った以上に時間がかかる時がある。
- ・丁寧に作業したいけれど、長引くと料金が上がるし、早く済ませようとすると雑になってしまうので、加減が難しいです。



生活支援を利用した会員の意見

* 良かった点・嬉しかった点 *

- ・1、2時間の短時間で頼めるからいいわあ。
- ・一人暮らしやけん、本当に助かってます。
- ・気の毒に思うくらい良くしてくれるんで。
- ・知っている人が来てくれて、頼みやすかった。今後の事を考えてアドバイスもしてくれて助かった。
- ・誰か雇おうと思っても、なかなか人はおらんけんなあ。お願いできるところがあるのは助かるんで。
- ・自治会の作業に代理で出てくれるのが、大変ありがたいです。
- ・具合が悪くなった時に助けてもらって、一人暮らしでも、安心して暮らせるなと思いました。できるだけ自分の事は自分でできるように日々がんばります。

* 寄り合い場・広場に来た感想 *

- ・いつでも自分の都合の良い時に気軽に寄れるので助かります。
- ・みんなでおしゃべりするのが楽しいわあ。
- ・リラックスして過ごせて、気が安まります。家にいるみたい。
- ・土足で上がれるのが嬉しいなあ。
- ・くらサポに行けば誰かがいるという安心感があって、本当にありがたいです。
- ・地区のサロンよりも広い範囲の人と交流ができて、いろんな人と友達になれるので、楽しいです。

* 生活支援や寄り合い場の今後の課題 *

- ・楽しくお話しできるけれど、話した事が他の人にも伝わって噂になっているようです。安心して何でも話せる人がいてほしいです。
- ・行きたくても遠くて行けれんけんなあ。近くにあるといいなあ。
- ・一度使うと良さが分かるやろうけど、最初は使い方が分からんけんなあ。
- ・遠くまで外出支援で行けるといいなあ。



こうなったらいいな！みんなで支えあう地域づくり

医療・介護 専門職によるサービス



- ・入院、通院治療
- ・介護保険サービス
(通所、訪問サービス)



- ・入院中の支援
(買い物、一時帰宅)
- ・退院後の支援
(服薬確認、見守り)

暮らしのサポートセンター

* 会員同士の助け合い (中学校区単位)

- ・継続した人材育成
- ・生活課題実態調査
- ・地域の課題、要望の把握
- ・足りないサービスの創出
→有償生活支援サービスの確立
中学校区単位でのサロン実施
寄り合い場の運営



地域だけでは解決できない課題を一緒に考えて、やりがいのある住民主体の活動を展開

- ・連携、協働
- ・お互いの長所、短所を補い合う

行政



- ・各種事業の推進
- ・公的サービスの総合調整
- ・地域活動の支援 など

「みんなで見守る」 地域の輪



住まい

地域の中での助け合い

* 地区社協を核とする日々の活動 (小学校区単位)

- ・分館、地区館、集会所での活動
- ・自治会、隣保班
- ・地区行事の企画、実施
- ・敬老会、配食
- ・見守り、声掛け、話し相手

民生委員
福祉委員
自治会長
老人クラブ
食推
愛育保健推進員



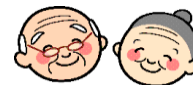
市全体の大きな課題 移動手段の確保

- ・公共交通機関との連携
- ・無償運送
- ・買い物バス、コミュニティバス
- ・生活支援の一環としての外出支援



地域包括支援センター 「つるかめ」

- ・地域ケア会議
- ・相談対応
- ・サービスのコーディネート
- ・地域活動の支援、ネットワーク
- ・認知症対策



社会福祉協議会

- ・地域福祉の推進
- ・ボランティア育成
- ・いきがいサロン
おしゃべりサロン
- ・地区社協の活動支援



連携

各種団体・機関など

シルバー人材センター
ボランティア団体
保育園、幼稚園、学校
駐在所、商店
離れて暮らすご家族

暮らしのサポーターの取り組みの課題について

○人材育成の継続的な実施の必要性

暮らしのサポーター養成には、人材育成を企画・実施する機能が必要です。（協議体の役割の一つ「資源開発」） これは「**生活支援サービスの充実**」であり、「**高齢者の社会参加**」に繋がります。

○官民協働の取り組みとして

住民だけで新たな組織や仕組みを創り出し、活動を持続していくのは難しいのも現状です。くらサポの活動は、官民協働のまちづくりの一手法です。行政だけでは対応できない課題を、住民と協働しながら解決していこうとする働きかけが必要です。（協議体が話し合いの場に。「ネットワーク構築」）

○連携体（協議体）の必要性

あらゆる活動の主体が連携を図り、目指す地域像を共有しながら地域づくりに取り組んでいく必要があります。コーディネーターが協議体を作るのではなく、協議体は、コーディネーターの選出や、役割を話し合う場であり、地域に助け合い活動を広げていく主体です。

○くらサポ・コーディネーター

住民主体の活動においては、サポーターと利用者をつなぐコーディネート役が必要です

（ニーズと取り組みのマッチング） ↓

「くらサポ・コーディネーター」竹田市では必然的に生まれてきました！

○予算の確保

住民主体の取り組み、助け合いの活動をより効果的、継続的に推進するために、必要な予算の確保が重要です。（新しい地域支援事業の活用）